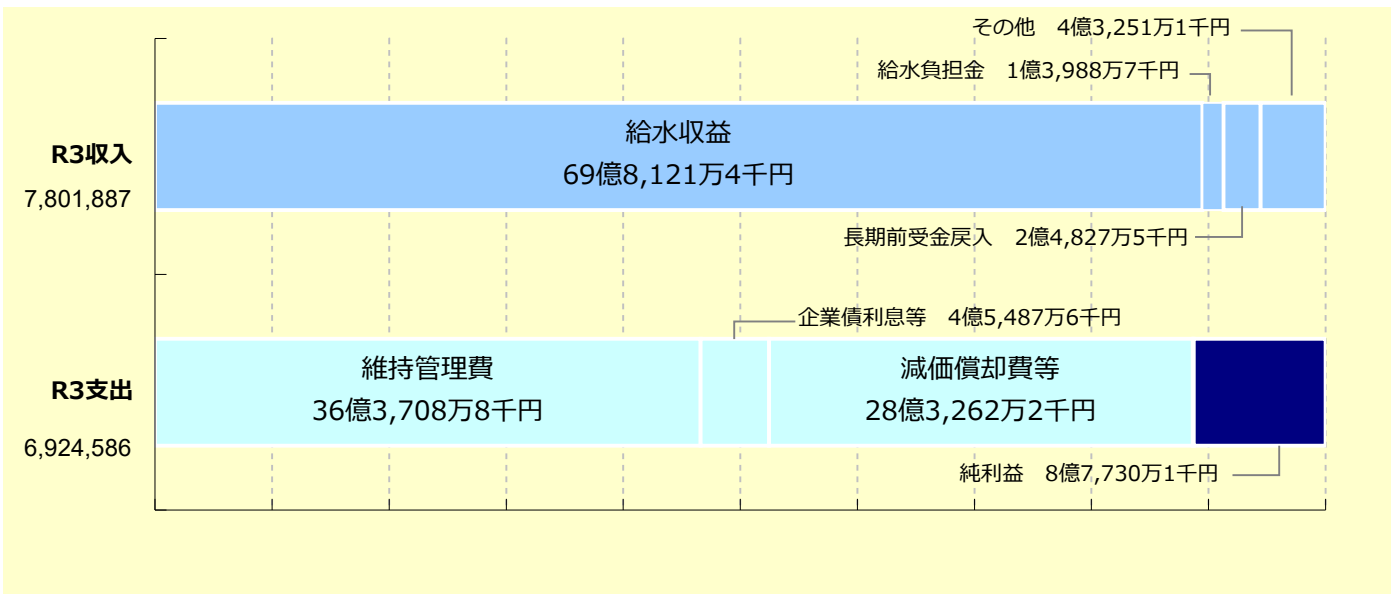


宮崎市上下水道局 令和3年度 決算概要（水道事業）

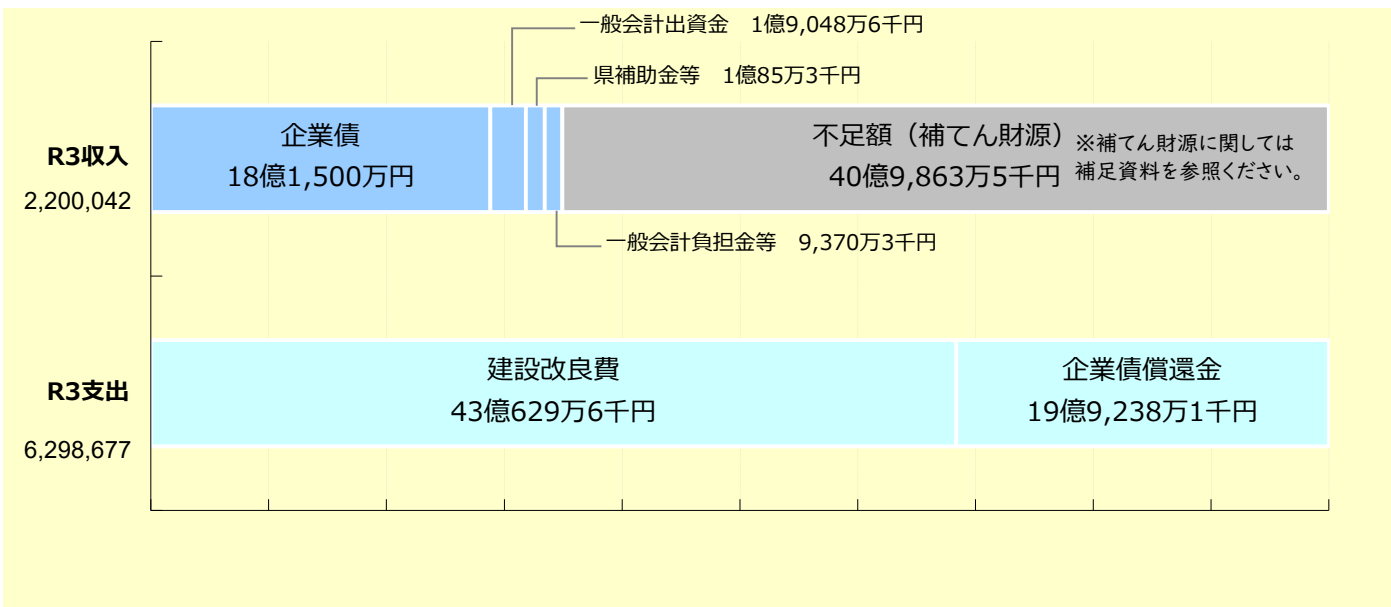
収益的収支（税抜、単位：千円）

< 1年間の企業の経営活動に伴い、発生する収益及び費用 >



資本的収支（税込、単位：千円）

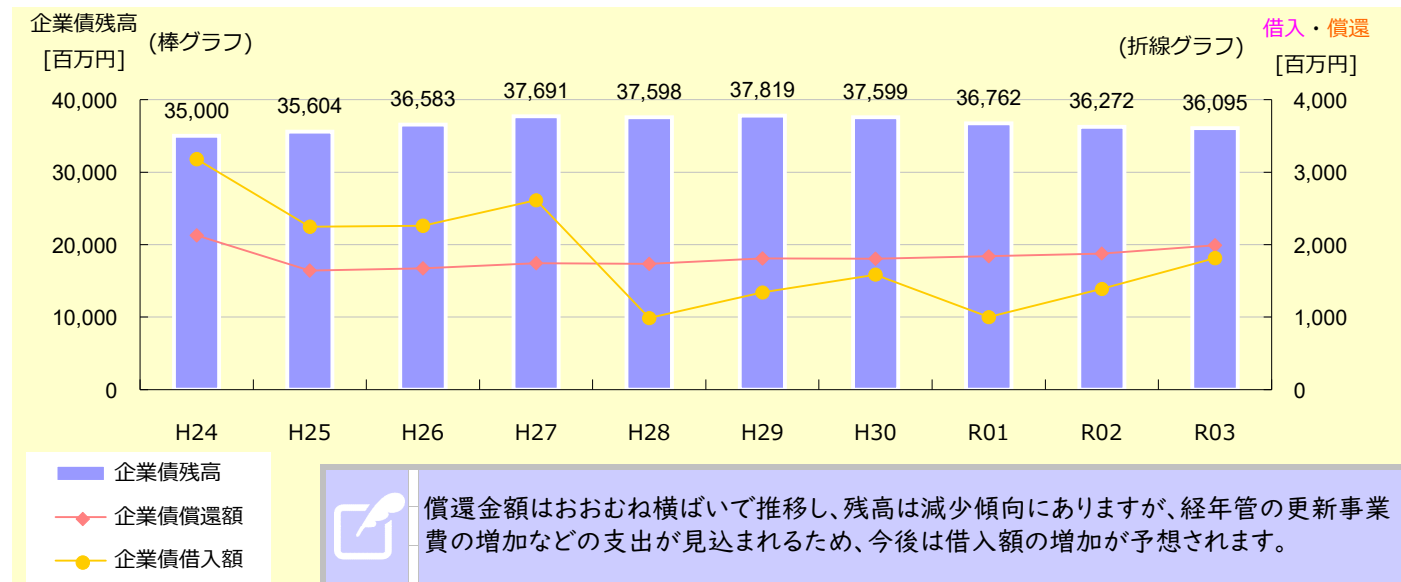
< 施設の建設など支出の効果が次年度以降に及ぶ費用、企業債の元金償還などの支出とその財源となる収入 >



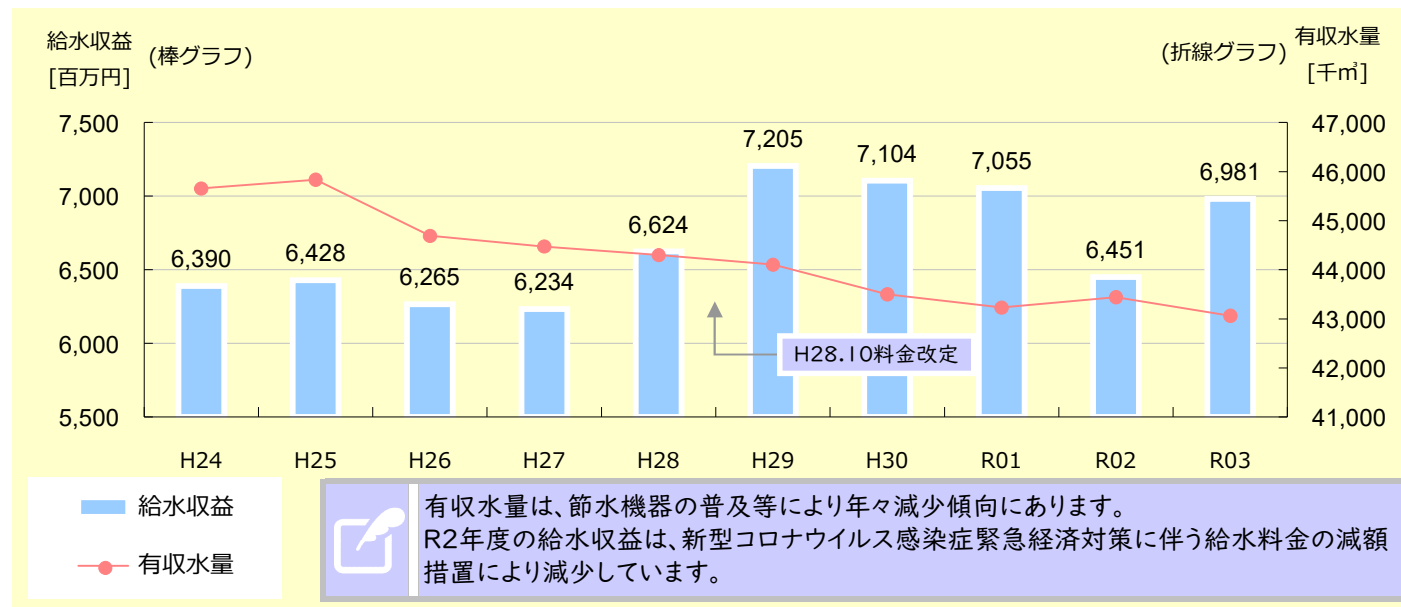
※減価償却費…長年使用する資産の取得費用を耐用年数に応じて費用化したもの
 ※長期前受金戻入…長年使用する資産の取得時に交付された補助金等を減価償却費と同様に収益化したもの

- 【決算のポイント】
- ・前年度と比べて給水収益が約5億3000万円の増収となりました。
 - ・純利益（黒字）8億7,730万1千円を計上しました。
 - ・平成26年度からの継続費事業であった下北方浄水場新系浄水施設整備事業が完了しました。
 - ・不足額を内部留保資金（損益勘定留保資金など）で補てんしました。

企業債残高及び企業債償還金の推移（単位：百万円）



給水収益及び有収水量の推移（単位：百万円、千m³）

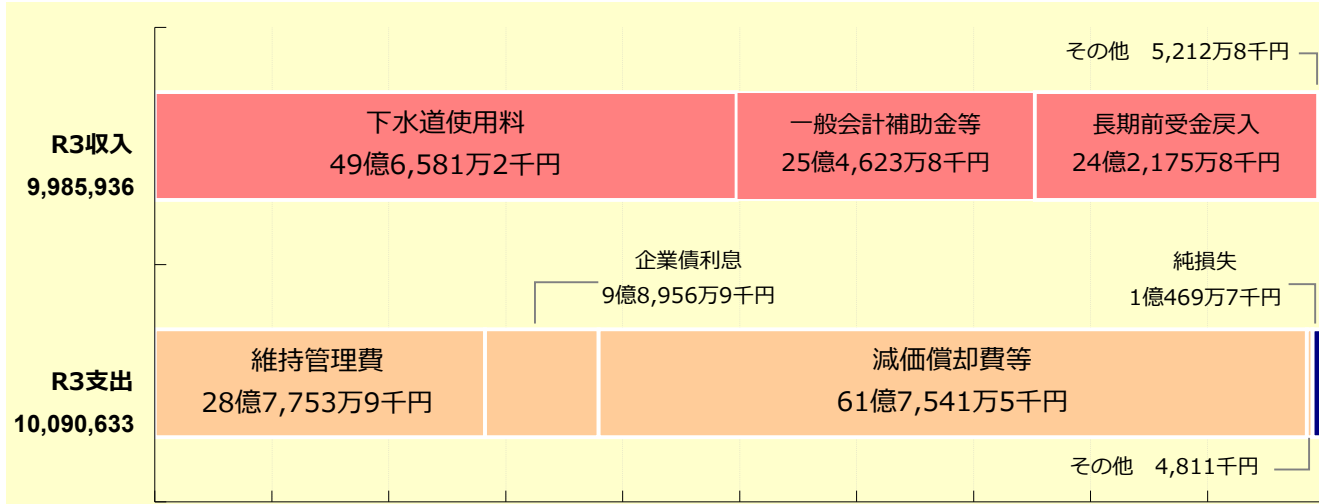


令和3年度に実施した主な事業

- ①浄水場等改修事業（事業費：5億9,685万5千円）
下北方浄水場新系浄水施設整備事業が完了しました。
- ②経年管更新事業（事業費：9億1,392万8千円）
配水管布設替工事により約11.3kmの経年管を更新しました。
- ③幹線管路耐震化事業（事業費：17億8,438万3千円）
災害発生時に避難所となる公共施設や拠点医療施設を中心に、市内中心部を巡る環状ルートの幹線管路の耐震化に取り組みました。

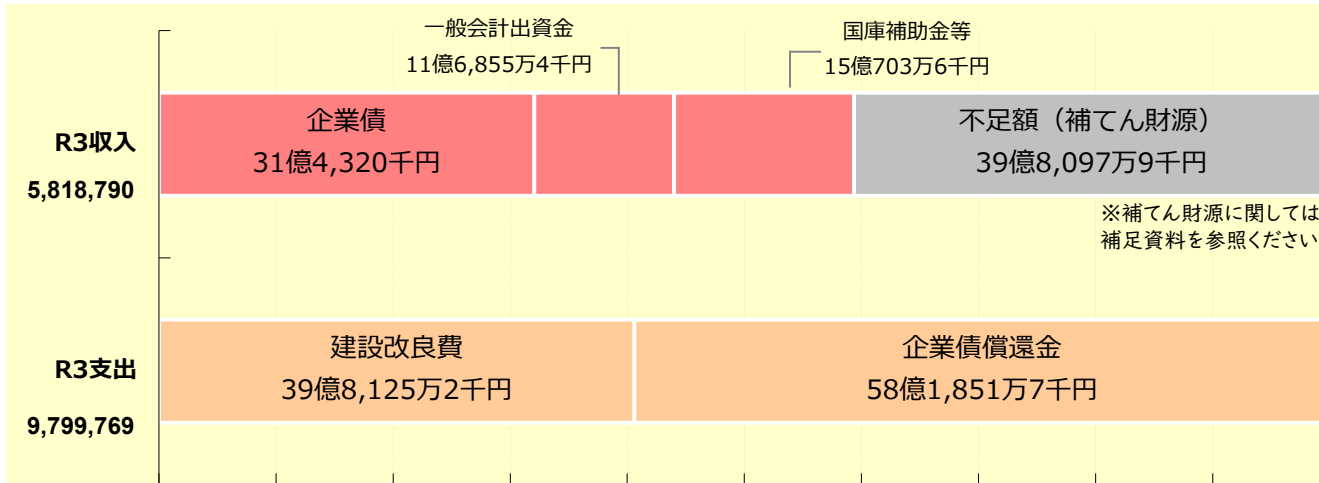
収益的収支（税抜、単位：千円）

< 1年間の企業の経営活動に伴い、発生する収益及び費用 >



資本的収支（税込、単位：千円）

< 施設の建設など支出の効果が次年度以降に及ぶ費用、企業債の元金償還などの支出とその財源となる収入 >

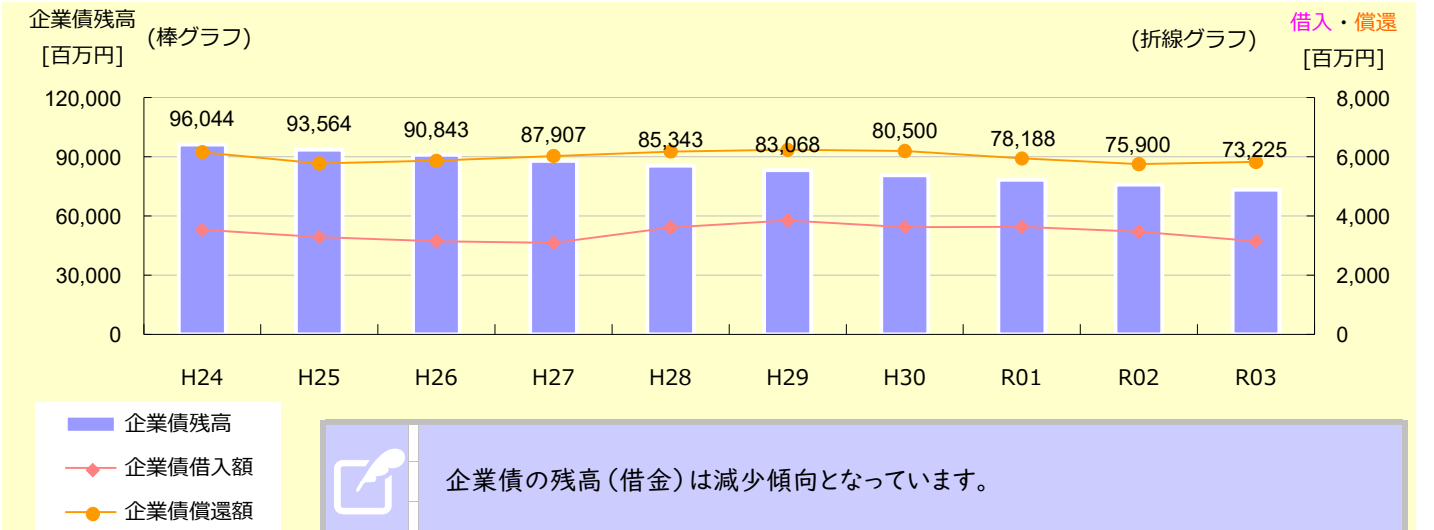


※減価償却費…長年使用する資産の取得費用を耐用年数に応じて費用化したもの
 ※長期前受金戻入…長年使用する資産の取得時に交付された補助金等を減価償却費と同様に収益化したもの

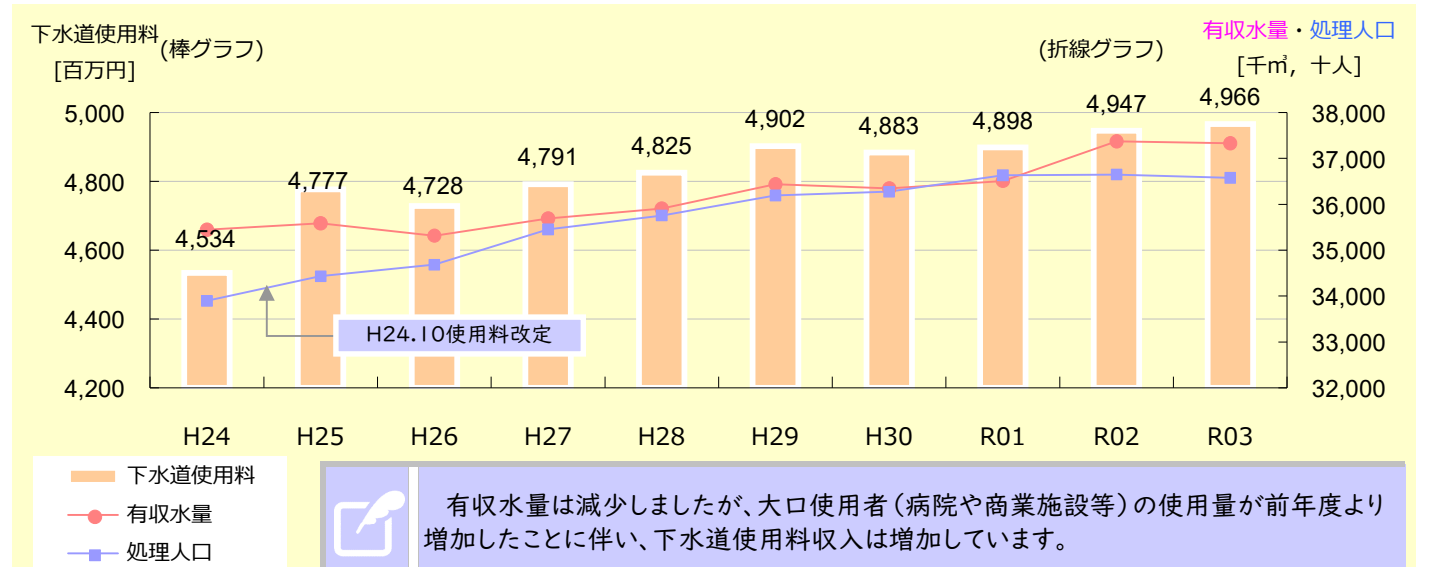
【決算のポイント】

- ・純損失（赤字）1億469万7千円を計上しました。
- ・本年度に生じた純損失につきましては、繰越欠損金として翌年度へ繰り越され、次年度以降に発生する純利益で解消していくこととなります。
- ・下水道使用料が前年度と比較して、約1,869万円の増収となりました。
- ・資本的支出の50%以上が企業債償還金（借金の返済）で占められています。

企業債残高及び企業債償還金の推移（単位：百万円）



下水道使用料収益、有収水量及び処理人口の推移（単位：百万円、千㎡、十人）



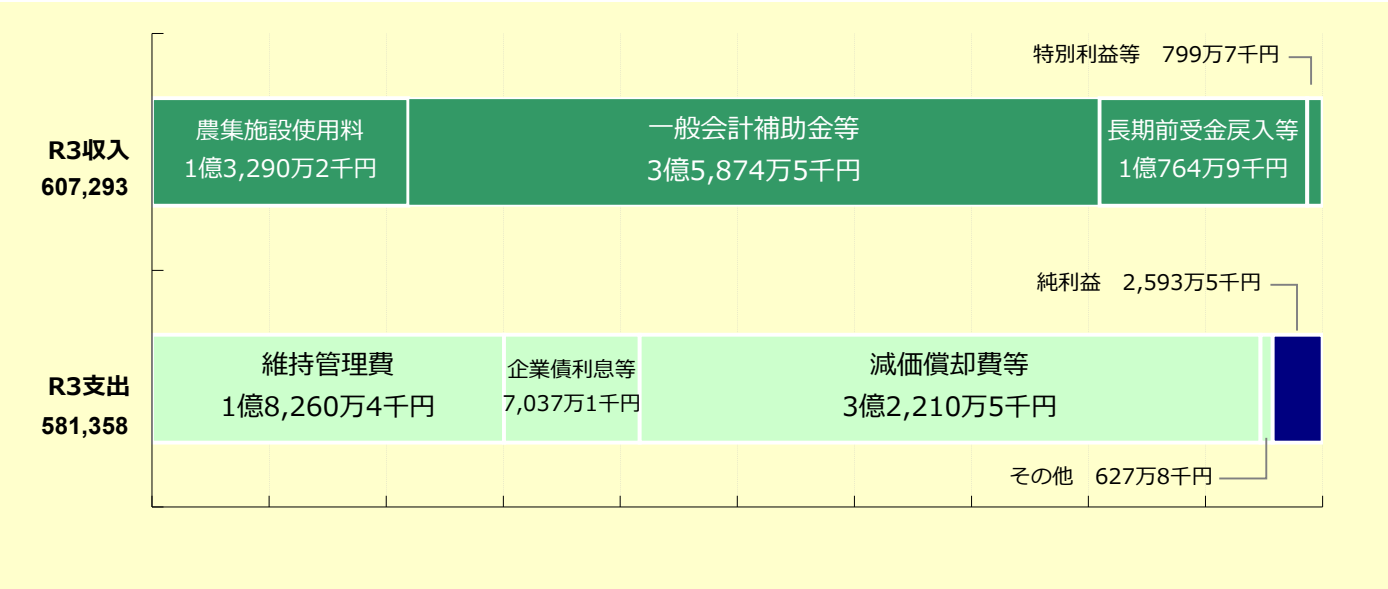
令和3年度に実施した主な事業

- ①管きょ改築事業（事業費：11億8,094万9千円）
老朽管の長寿命化を図るため、国庫補助事業を活用して管きょの改築に取り組みました。
- ②処理場等施設整備事業（事業費：15億1,787万9千円）
汚水処理機能の向上を図るため、国庫補助事業を活用して設備の設置や改築に取り組みました。
- ③浸水対策事業（事業費：5億3,013万7千円）
浸水被害が発生している地域の被害軽減を図るため、雨水幹線等の整備に取り組みました。

宮崎市上下水道局 令和3年度 決算概要（農業集落排水事業）

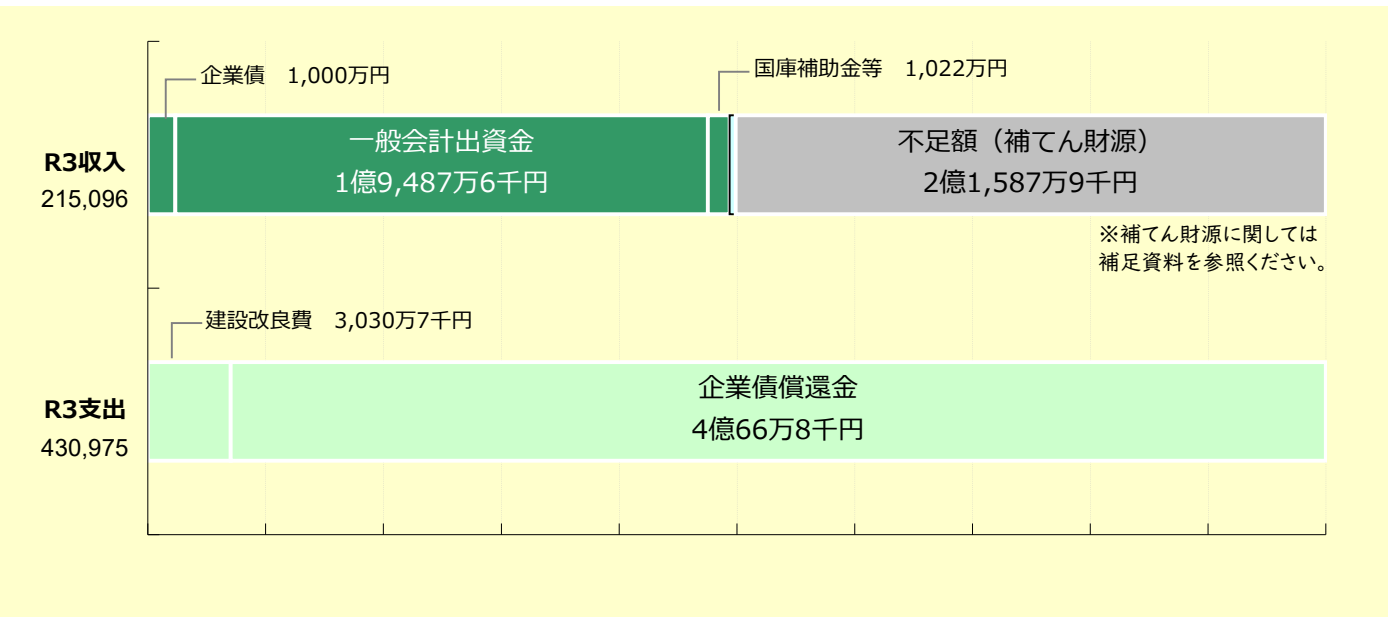
収益的収支（税抜、単位：千円）

< 1年間の企業の経営活動に伴い、発生する収益及び費用 >



資本的収支（税込、単位：千円）

< 施設の建設など支出の効果が次年度以降に及ぶ費用、企業債の元金償還などの支出とその財源となる収入 >

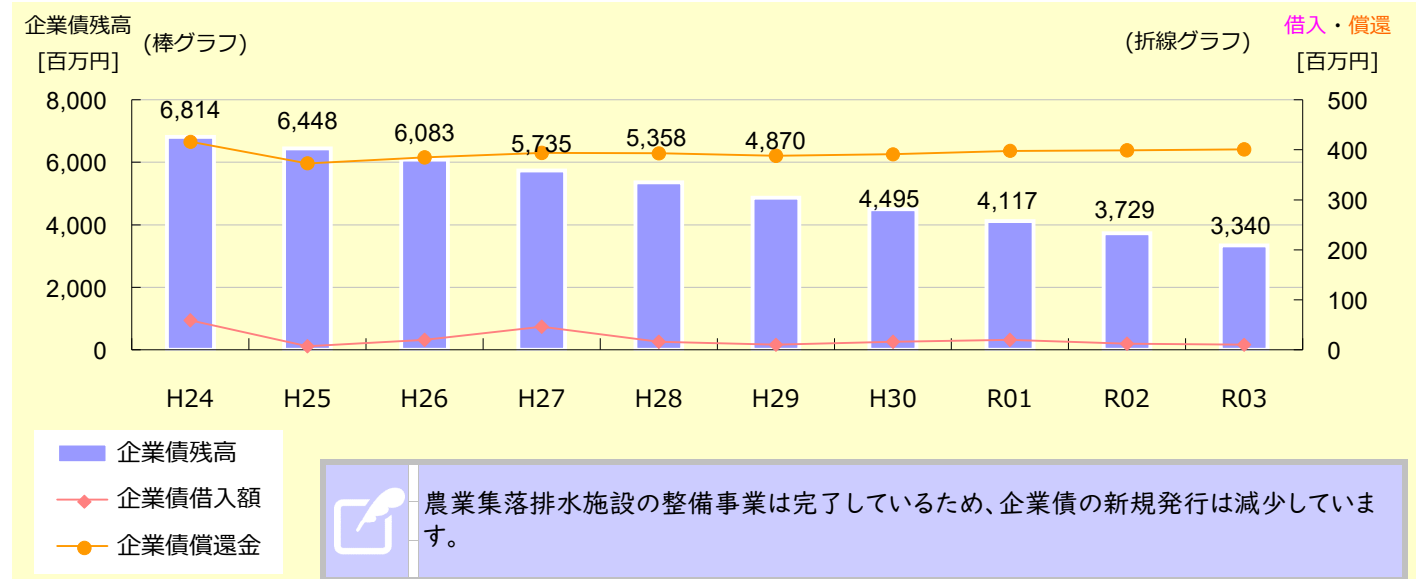


※減価償却費…長年使用する資産の取得費用を耐用年数に応じて費用化したもの
 ※長期前受金戻入…長年使用する資産の取得時に交付された補助金等を減価償却費と同様に収益化したもの

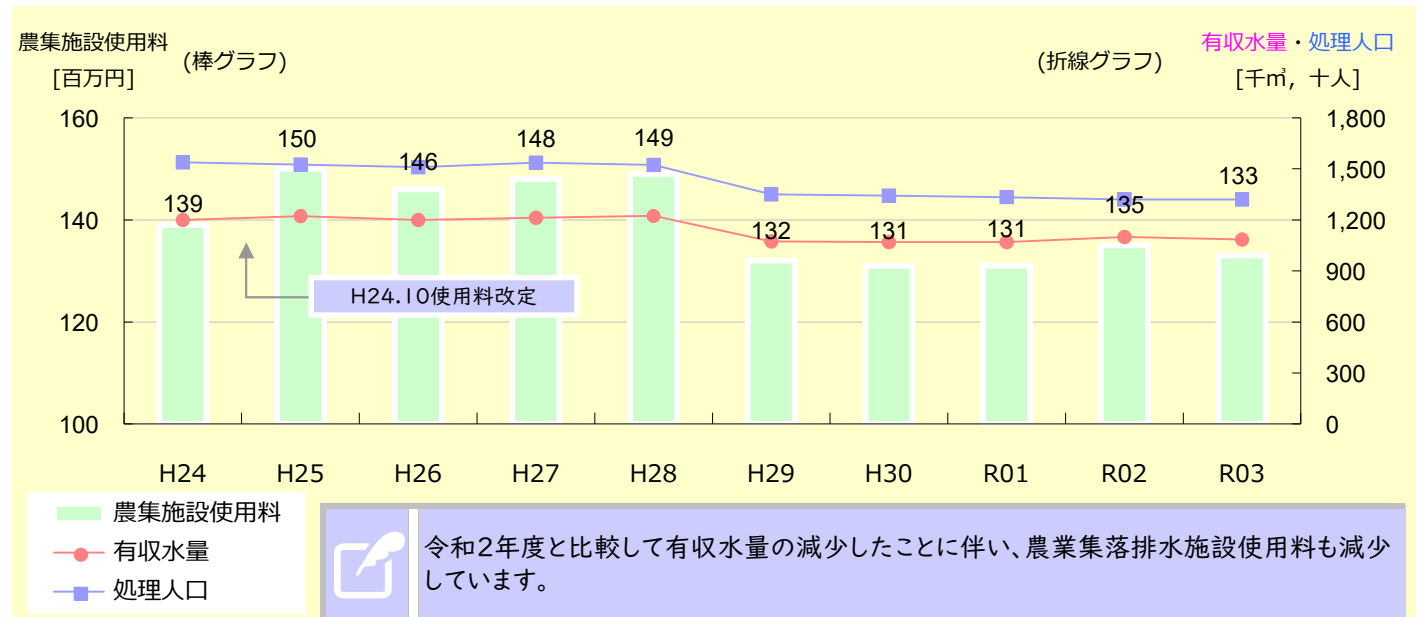
【決算のポイント】

- ・純利益（黒字）1,810万9千円を計上しました。
- ・下水道使用料が前年度と比較して、約203万円減収となりました。
- ・資本的支出のほとんどが企業債償還金（借金の返済）で占められています。
- ・不足額を内部留保資金（損益勘定留保資金など）で補てんしました。

企業債残高及び企業債償還金の推移（単位：百万円）



農業集落排水施設使用料収益、有収水量及び処理人口の推移（単位：百万円、千³m、十人）



令和3年度に実施した主な事業

- ①管きょ等布設事業（事業費：122万5千円）
公共樹の設置を行いました。
- ②処理場施設整備等事業（事業費：2,901万9千円）
汚水処理機能の向上を図るため、設備の設置や改築に取り組みました。

宮崎市上下水道局 令和3年度 決算概要（工業用水道事業）

収益的収支（税抜、単位：千円） 資本的収支（税込、単位：千円）

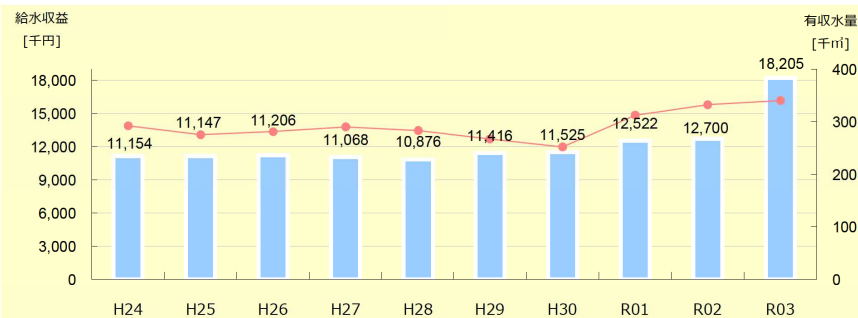


●工業用水道事業とは…
平成22年3月23日、本市は清武町との合併に伴い、工業用水道事業を引き継ぎました。
宮崎学園都市ハイテクパーク内の企業2社（バクスター㈱・富士フィルムワークケミカル㈱）へ工業用水を供給しています。

※減価償却費…長年使用する資産の取得費用を耐用年数に応じて費用化したもの
※長期前受金戻入…長年使用する資産の取得時に交付された補助金等を減価償却費と同様に収益化したもの

- 【決算のポイント】
- ・料金改定に伴い、R2年度と比較して給水収益が550万5千円の増収となりました。
 - ・純利益（黒字）596万7千円を計上しました。
 - ・不足額を内部留保資金（損益勘定留保資金など）で補てんしました。
 - ※ 令和3年4月1日より基本料金及び特定料金を「20円」から「30円」に改定しています。

給水収益及び有収水量の推移（単位：千円、千m³）



R3年4月1日使用分から料金の増額改定に伴い、給水収益が増加しています。

～なぜ、有収水量が減少して給水収益が増加する年度があるのか？～
工業用水道事業会計では、責任水量制をとっており、実際に使用した水量が契約水量より少ない場合でも、契約水量分の料金を請求しています。また、契約水量を使用水量が超過した場合は超過料金を加算して請求しています。
そのため、工業用水道事業会計においては有収水量と給水収益が必ずしも比例する状態にはありません。

かんたん解説！①（企業会計の仕組み～事業を行っていくための3つの財布～）

企業会計では事業を行うための、3つの財布を持っています。
1つ目は、【収益的収支】。市民の皆さんからいただいた上下水道料金によって、水道水の供給や汚れた水をきれいにするためにかかった費用を計上しています。また、それによってその年にどれだけ利益（もしくは損失）が生じたのかを管理する財布です。

2つ目は、【資本的収支】。老朽化した施設の更新、新しい施設の建設、そして借金の返済をするためのお金を管理する財布です。
しかし、国からの補助金や企業債など外部から資金調達を行っても財源が不足してしまいます。

そこで登場するのが、3つ目の財布。【内部留保資金（もしくは、補てん財源）】と言われるものです。前年までに生じた【収益的収支】の余り（利益）と非現金支出である減価償却費などを管理しており、不足が生じた場合、ここから不足分を補てんしています。



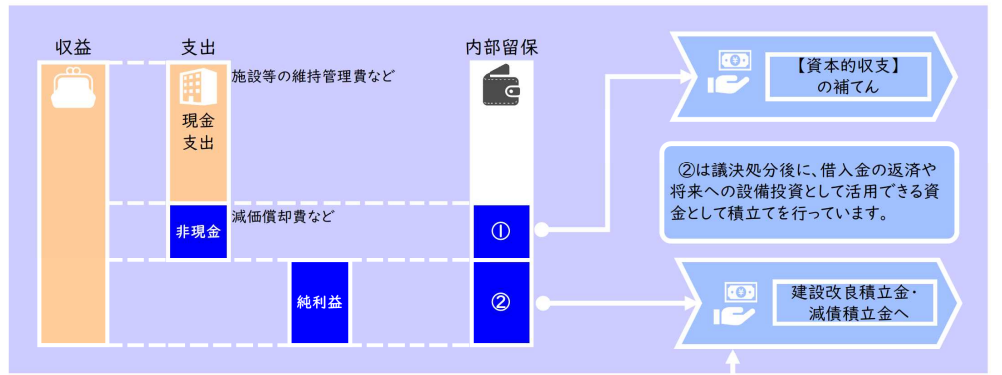
内部留保資金を確保することが、企業としての健全性向上や事業の迅速な実施につながっていきます！

かんたん解説！②（企業会計の仕組み～内部留保資金とは？～）

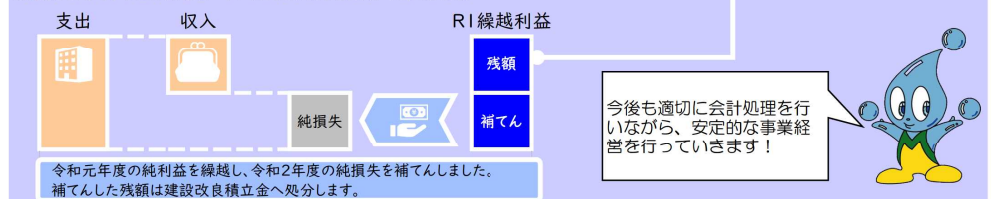
減価償却費など、「実際にお金の支出がない費用計上によって生じた資金」を【内部留保資金】といいます。
この資金は、主に施設整備の費用やこれまでにを行った施設整備（管路や施設の整備）のために借り入れた「借金（企業債）の元金返済」や「次年度以降の建設改良費」（資本的収支不足額の補てん）への財源として使用しています。

この内部留保資金を財源として整備された施設の費用は、その整備された翌年から減価償却費として費用に計上され、また、内部留保資金として積み立てられています。

この仕組みが毎年度繰り返されています。



※純損失（赤字）が生じた場合<令和2年度水道事業会計の補てん方法>



今後も適切に会計処理を行いながら、安定的な事業経営を行っていきます！